

平成19年9月20日

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ

MUFGグループ各社とジャックスの4社提携をはじめとする 本日の一連の公表事案について

本日、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(取締役社長 くろやなぎ のぶお 畔柳 信雄、以下MUFG)ならびにその子会社である株式会社三菱東京UFJ銀行(頭取 畔柳 信雄)および三菱UFJニコス株式会社(代表取締役社長 おおもり かずひろ 大森 一廣)と、株式会社ジャックス(取締役社長 すぎもと なおえ 杉本 直榮)は、グループ内外にわたる業務・資本提携、経営計画および資本政策等に係る一連の公表を行いました。

MUFGグループは、これら一連の公表内容を着実に実現することにより、コンシューマーファイナンス分野において、環境変化にいち早く抜本的に対応し、戦略的優位性とトップ金融グループとしての基盤を一段と強固なものとしてまいります。

1. MUFGグループのコンシューマーファイナンス市場に対する認識と戦略

本邦のコンシューマーファイナンス市場においては、改正貸金業法の成立など消費者保護の流れを受けて、クレジットカード、個品割賦および消費者金融の各業態・各企業が、既存のビジネスモデルからの脱却や、新しい時代に適応するための業務運営態勢の抜本的再構築を迫られております。

こうした中で、この市場が持つ本来的な可能性は大きく、今後、新たなる発展段階に入ると認識しております。クレジットカード市場では、決済等の利用分野や携帯等の新チャネルの展開により飛躍的な規模の拡大と質的な転換を迎えると考えられます。また、個品割賦市場や消費者金融市場では、市場規模や参加業態・企業の大きな構造変化が生じると考えられます。

MUFGとしては、これらの環境変化に確りと対応できる強固な体制をいち早く構築し、この市場におけるお客さまの多様化する需要に的確、かつスピーディに対応することで、質・量の両面でリーディングポジションを確立し、事業基盤を強化・拡大してまいります。

(1) 主要3市場（クレジットカード、個品割賦、消費者金融）に対する現状認識

クレジットカード市場は、既に年間取扱高40兆円に達する巨大市場ですが、米国や英国との比較からも、さらなる発展の余地は多大であり、今後とも飛躍的な取引規模と利用機会の拡大が見込まれます。さらに、公共料金や医療等、これまで現金や口座振替が中心だった決済分野での利用拡大、インターネットやモバイル等、従来とは異なる新たなチャネルにおける利用拡大、リボ払いの拡大（総量規制による他業態からの超過需要のシフトを含む）といった新たな成長段階に入りつつあります。今後のクレジットカード市場では、後述のとおり、決済分野やチャネル等でシナジー効果の期待できる銀行型の金融機関に大きなチャンスがあると考えられます。

個品割賦市場は縮小傾向ながら、依然として年間取扱高10兆円におよぶ巨大市場であり、高額商品等を中心とする本来的な需要や金利選好に支えられ、将来的にも一定の市場規模が維持されると判断されます。ただし、今後の個品割賦市場では、過払い利息返還や貸出金利引き下げの負荷が少ないこと、規模のメリット等を活かした低コスト体制を確立すること、消費者保護を重視した加盟店管理態勢を構築すること等が、競争上重要と考えております。

消費者金融市場は貸金業法改正の影響を最も大きく受けており、厳しい環境が続くとは考えられますが、本来的な需要は底堅く、一定の市場規模は維持されると判断されます。今後の消費者金融市場は、総量規制に伴う業態間の超過需要のシフトやブランド選好の強まり等を受けて、銀行もしくは銀行型の金融機関に大きなチャンスがあると考えられます。

(2) MUFGグループのコンシューマーファイナンス戦略

MUFGとして、各業態におけるリーディングカンパニーであるグループ各社とともに、拡大・多様化するお客さまのニーズに的確・スピーディに対応するとともに、他に先んじて、新しい時代に相応しいコンシューマーファイナンス戦略の展開を一気に加速してまいります。

① クレジットカード事業

今後飛躍的な成長を開始すると考えておりますクレジットカード事業においては、グループおよび提携先が有する他を圧倒する営業基盤・ノウハウを最大限活用いたします。カードのイシューング業務では、三菱東京UFJ銀行、三菱UFJニコス、農林中央金庫およびJAバンク^(注)、ジャックスの各社が有するそれぞれの強みを活かして、市場シェアの大幅な拡大をめざします。

他方で、プロセッシング等のバックヤード業務の面では、本邦No.1の「総合カード会社」である三菱UFJニコスの機能を集中的に活用し、各社のクレジットカード事業のコスト競争力を高めてまいります。併せて、クレジットカードのブランド強化等も実施し、マーケットシェア、コスト競争力の両面において、他を圧倒するクレジットカード事業を構築してまいります。

(注) 三菱UFJニコスは、農林中央金庫との業務・資本提携に基づき、JAバンク3,800万口座のお客さまに対するJAカードの販売を全面展開しつつあります。

② 個品割賦事業

個品割賦事業は、ジャックスを軸に展開してまいります。ジャックスは、三菱UFJニコスの個品割賦事業承継後、個品割賦取扱高で年間約1兆3,000億円と、本邦トップクラスとなります。また、ジャックスは過払い利息返還や新規・既存の貸出金利引き下げに係る負荷がないという点で極めて優位にあると考えております。今回の業務提携による合理化効果と併せ、収益力強化の点で業界他社に一步先んじて、質・量の両面で業界内の圧倒的なポジションをめざしてまいります。

③ 消費者金融事業

業界のリーディングカンパニーとして、業界他社に先駆けて、貸出金利引き下げやコンプライアンス強化を実施しているアコムと連携し、お客さまの資金需要に的確に対応し、健全な消費者金融市場の育成に努めてまいります。

2. 今回のMUFGグループフォーメーションの強化

MUFGグループとしては、コンシューマーファイナンス事業の重要性は益々高まっており、資本面での体制強化が必要と認識し、以下の資本政策を行なうことを決定いたしました。

(1) ジャックスについて

三菱東京UFJ銀行は、必要となる関係官庁の承認等を前提として、平成19年度中に、ジャックスに対する出資比率を20%まで引き上げ、ジャックスを持分法適用関連会社といたします。これにより、MUFGグループは、個品割賦事業の中核となる強力なパートナーを得ることになります。

(2) 三菱UFJニコスについて

三菱UFJニコスについては、今後飛躍的に成長するクレジットカード事業においてMUFGグループの中核を担う企業として、財務基盤を強化し、戦略的投資余力を確保するべく、平成19年11月6日付で1,200億円の第三者割当増資を行い、MUFGが全額を引き受けます。さらに、MUFGとしては、大きなポテンシャルを有するクレジットカード事業を、銀行、信託、証券と並ぶグループの主要事業領域と位置づけるとともに、グループとしての戦略的一体性を高めるべく、平成20年8月を目処に、株式交換により三菱UFJニコスを完全子会社化します。

なお、MUFG、三菱東京UFJ銀行、三菱UFJニコスは、農林中央金庫と三菱UFJニコスの現在の資本提携を維持するとともに、これを機に、業務・資本提携をより緊密かつ安定的なものとするを目的として、農林中央金庫による三菱UFJニコスの持分法適用を視野に入れた協議を、農林中央金庫と進めてまいります。

3. 本日の一連の公表事案概要

上記も含めた、本日のMUFGグループ各社による一連の公表事案の概要は以下のとおりです。

(1) MUFG、三菱東京UFJ銀行、三菱UFJニコスおよび株式会社ジャックスは業務・資本提携に係る以下の内容の基本合意を締結しました。

- ① 平成20年4月1日付で、三菱UFJニコスは個品割賦事業をジャックスに承継します。
 - 承継対象資産約7,800億円（平成19年3月期実績）に対し譲渡損失見込みは約120億円、関連総人員数約1,100名に対し承継人員数は340名程度、承継拠点（含むセンター）は5拠点となります。
 - ジャックスの個品割賦事業は、三菱UFJニコスの良質な営業基盤を承継することにより、取扱高は約1兆3000億円（平成18年度両社連結実績合算）となり、質・量ともに本邦トップクラスとなります。
 - 他方、コスト面では、営業基盤を承継するために真に必要な人員・拠点に限定する形での事業承継スキームを採用することにより、大幅な費用削減を実現し、強靱なコスト構造を有する収益力のあるビジネスに転換いたします。これにより、80億円程度の財務面でのプラス効果が見込まれます。
- ② クレジットカード事業等に係る業務提携を行い、順次、具体化してまいります。
 - ジャックスはカード発行企業（イシューア）としての立場を継続しつつ、プロセッシングをはじめとする、クレジットカードのバックヤード業務の共同化等により、30億円程度の財務面でのプラス効果をめざします。
 - その他にも、加盟店開拓や住宅ローン関連取引等において、MUFG、三菱東京UFJ銀行も含めて、協働を進めます。
- ③ ジャックスは、①、②により、平成24年度に過去最高となる200億円を超える経常利益をめざします。
- ④ 三菱東京UFJ銀行は関係官庁の承認等を前提として、平成19年度中に、ジャックスに対する出資比率を20%まで引き上げ、持分法適用関連会社とします。

以上により、ジャックスはMUFGグループにおける個品割賦事業の中核企業となります。

【関連公表資料】

- ✓ ジャックス、三菱UFJニコス、三菱UFJフィナンシャル・グループおよび三菱東京UFJ銀行の業務・資本提携に係る基本合意について
- ✓ ジャックス：「今後の経営目標」の見直しに関するお知らせ

(2) 三菱UFJニコスは、環境の変化と成長するクレジットカード市場を展望し、現行中期計画よりさらに踏み込んだ構造改革を断行し、ファイナンス事業依存型からクレジットカード事業主体のビジネスモデルに抜本的に転換する「新中期経営計画」を策定いたしました。

① 個品割賦事業のジャックスへの承継により、クレジットカード事業への経営資源の集中を図ります。

- 個品割賦事業は、三菱UFJニコスの母体の一つである旧日本信販株式会社が本邦における先駆者として開始した事業ではありますが、現状の環境等を踏まえて検討した結果、三菱UFJニコス単独による採算確保には限界があるとの結論に到りました。
- クレジットカード事業主体の事業運営に転換することで、大規模な拠点統廃合、地方子会社の統合、および人員削減が可能となり、コスト構造が抜本的に改善されます。

② 上記を受け、現行中期計画の1,400名から倍増となる2,890名の人員削減を3年間で実施いたします。

- 平成19年度は、2,300名の早期退職募集を行います。

③ 平成20年1月1日付で、地方子会社6社を本体の三菱UFJニコスへ統合します。

- 具体的には、以下の6社を消滅会社、三菱UFJニコスを承継会社とする吸収合併を実施します。

青森ニコス株式会社、秋田ニコス株式会社、山形ニコス株式会社、
岐阜ニコス株式会社、西日本ニコス株式会社、南日本ニコス株式会社

- 各社とも三菱UFJニコスとほぼ同様の業務を行っておりますが、環境の激変により、各社単独での事業継続が困難と判断したものです。各社の個品割賦事業は、吸収合併の効力発生後、三菱UFJニコスの当該事業とともにジャックスに承継されます。

④ ①から③等による構造改革引当金586億円、および過払い利息返還への十分な備えとして455億円の計上を主因に、三菱UFJニコスの平成19年度連結決算は、中間期当期利益で1,194億円の赤字、通期の当期利益で1,118億円の赤字となる見込みです。

⑤ 上記により、環境変化に伴う課題を解決し、新たな成長戦略を進める新中期経営計画を策定しました。新計画では当期利益で平成21年度381億円、平成22年度457億円をめざします。

以上により、三菱UFJニコスは名実ともに本邦最大最良の「総合カード会社」としての地位を確固たるものとし、市場の成長によるメリットを最大限に享受しうる態勢を確立します。

【関連公表資料】

- ✓ 三菱UFJニコス：平成20年3月期（連結・個別）業績予想、配当予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ
- ✓ 三菱UFJニコス：「新中期経営計画」の策定および「子会社の吸収合併（簡易合併）」「業務構造改革」実施に関するお知らせ

(3) 三菱UFJニコスは、財務基盤を強化し、成長するクレジットカード市場への戦略的投資余力を確保するべく、平成19年11月6日付で1,200億円の第三者割当増資を行い、MUFGがその全額を引き受けます。さらに、MUFGは、クレジットカード事業をグループの主要事業領域と位置づけるとともに、グループとしての戦略的一体性を高めるべく、平成20年8月を目処に、株式交換により、三菱UFJニコスを完全子会社化します。

(※) 第三者割当増資後、完全子会社化までの間の三菱UFJニコスに対する出資比率は、MUFGが28.1%、三菱東京UFJ銀行が47.0%となる見込みです。また、平成20年8月予定の株式交換に伴い、三菱UFJニコスは上場廃止となります。

なお、MUFG、三菱東京UFJ銀行、三菱UFJニコスは、農林中央金庫と三菱UFJニコスの現在の資本提携を維持するとともに、これを機に、業務・資本提携をより緊密かつ安定的なものとするを目的として、農林中央金庫による三菱UFJニコスの持分法適用を視野に入れた協議を、農林中央金庫と進めてまいります。

以上により、三菱UFJニコスはMUFGグループとの戦略的一体性を高め、クレジットカード事業の中核会社としての位置づけを、より一層明確にします。また、増資により、財務基盤を磐石とし、成長分野への戦略的資源配分を行います。

【関連公表資料】

- ✓ 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループによる三菱UFJニコス株式会社の第三者割当増資の引受および両社間の株式交換等について
- ✓ 農林中央金庫と三菱UFJニコス株式会社の資本提携関係の維持・発展について

4. 今後の予定

- 平成19年11月 6日 三菱UFJニコスによる1,200億円の第三者割当増資をMUFGが引受
- 平成20年 1月 1日 三菱UFJニコスは地方子会社6社を統合
- 平成20年 3月31日 三菱東京UFJ銀行はジャックスに対する出資比率を20%まで引き
まで 上げ、ジャックスを持分法適用関連会社化
- 平成20年 4月 1日 三菱UFJニコスの個品割賦事業をジャックスに承継
- 平成20年 8月目処 MUFGは株式交換により三菱UFJニコスを完全子会社化

以 上